

2011年10月24日

報道関係者各位

No.-59116

株式会社 東陽テクニカ
東京都中央区八重洲1-1-6

東陽テクニカ、平成23年9月期決算発表 売上高3%増、経常利益47%増

(株)東陽テクニカ（8151：東京都中央区 五味勝社長）は、本日（平成23年10月24日）午後2時、T D n e tにおいて平成23年9月期の決算を発表しました。

概要

売上高、前期比3.0%増、経常利益は47.2%増

当期（第59期：平成22年10月～平成23年9月）の売上高は183億8千3百万円（前期比+3.0%）、営業利益は19億9千2百万円（前期比+61.1%）、経常利益は23億3千8百万円（前期比+47.2%）、当期純利益は13億9千3百万円（前期比△27.3%）でした。前年同期は米国子会社CLEAR SIGHT NETWORKS社の譲渡益が発生したため、当期純利益は19億1千5百万円でした。

売上動向

輸入主要部門は堅調に推移

輸入売上高は173億9千1百万円で、前期比5.2%の増収、輸出売上高は9億8千9百万円で、前期比18.4%の減収でした。

情報通信が子会社売却の影響で微減となった以外は振動解析、EMC、物性など主要な分野が堅調に推移し、前期比増となりました。その他の計測分野では海洋計測分野で新製品効果が表れ、前期比増となりました。一方、輸出は韓国向け輸出が減少しました。

なお、3月11日に発生した東日本大震災の影響は開発投資の見合わせ、納入時期の延期という形で下期（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）の売上に影響を及ぼしました。

受注動向

受注高、前期比微増

当期（平成22年10月～平成23年9月）は、191億8千5百万円で前期比0.5%の微増となり、9月末時点での受注残は前期末に比べて6億9千4百万円増加しました。

売上総利益率

当期（平成22年10月～平成23年9月）は前期比2.0%ポイント上昇しました。これは、利益率の高い振動解析分野の売上が伸びたことと為替が対ドル、対ユーロ共に円高となったことによるものです。なお、当期の平均為替レートは対ドルで82円（前期90円）、対ユーロで114円（前期123円）でした。

経費

経費は68.5億円で、前期に比して1.8%の減少となりました。米国子会社の譲渡による減少が主な理由です。

連結対象子会社

特に重要な子会社はありません。

通期予想

通期予想につきましては、金融不安や円高など不透明な状況が継続するものの、国内経済は先の震災から徐々に立ち直ることが予想されます。

当社の主力たる研究開発分野におきましても、情報通信分野ではクラウドコンピューティング、セキュリティ対応（DDoS攻撃対応）などのマーケット変化への対応を急いでおり、自動車データ解析分野では鉄道分野へのさらなる進出が期待されます。さらに環境・クリーンエネルギー開発への資金投入などプラス要素もあります。また、中国市場へのアプローチも本格化することから、平成24年9月期は売上高210億円、営業利益29.5億円、経常利益32.5億円、当期純利益18.5億円を予想しております。

配当金

当社は利益配分を、利益に応じて配当に充てること、内部留保を充実させることとしております。また、株主還元については、基本的に配当金をもってこれにあてることとしており、連結当期純利益の60%を目処に配当金にあてることとしておりますことから、第60期の一株当たり配当金は38円（内、中間配当金12円）を予定しております。

このプレスリリースに関するお問い合わせは下記まで

株式会社 東陽テクニカ 経営企画室 (トトキ) 十時

Tel:03-3279-0771 Fax:03-3246-0645 E-Mail:totoki@toyo.co.jp